

第 19 期卒業エッセイ

使える脳みそは全部使っとけ

第 19 期 山崎 清乃

皆さんはタイトルの言葉をご存じだろうか。この言葉は、私のバイブルである漫画『宇宙兄弟』の第 21 巻において、悩んでいる六太に対して技術者ピコが放った言葉だ。「お前の役に立つ脳みそは 1 個だけじゃねえだろ。使える脳みそは全部使っとけ。周りにいくらでもあんだろ。」この言葉は、悩んだときは自分 1 人で何とかするのではなく、周りに頼ることで突破口が見つかり可能性が広がる、ということを意味している。私の小野ゼミでの 2 年間は、まさに周りの人々の「脳みそ」によって支えられた 2 年間だった。このエッセイには、私の小野ゼミ生活を支えてくれた人々への感謝の気持ちを記しておこうと思う。

まずは、同期である 19 期のみんなへ。3 年生の 9 月にゼミ長に就任して以来、みんなには数えきれないほど助けてもらいました。お互いの得意不得意を活かしながら支え合える素敵な同期に恵まれて、私はとても幸せ者でした。本当にありがとう。とりわけトミーとウエンツには、言葉にできないほどの感謝の気持ちを抱いています。三田論代表のトミーとは、役職就任直後から全体のスケジュールや進め方について 2 人で話すことが多くなりました。そこから卒業までの間ずっと、トミーは私に寄り添い続けてくれました。私はもともとかなり心配性で慎重な性格だったから、小野ゼミでの 2 年間は、「そこまで考える必要ある？」と同期に言われることが多々ありました。でもそんなとき、（同じくらい、もしくは私以上に心配性で慎重な）トミーが賛成して一緒に全体をまとめてくれたから、いつも気持ちに余裕を持って活動に取り組めたと思います。活動への意欲に同期間で差があるという状況に私がむしゃくしゃしているときには、大体トミーも同じ熱量でその状況を疑問視していたし、さらにそれを同期に伝えてくれました。そして、ウエンツはトミーと私の発言や計画をいつもバックアップしてくれました。頭が良くて絶対に感情的にならない（尊敬してます）ウエンツの影響力はウエンツが思ってるよりも全然大きくて、いつも助かっていました。このほかにも数えきれないほどトミーとウエンツに救われたことはあるけれど、ここには書ききれないので省略させていただきます。2 人がいなかったら、きっと最後までゼミ長としてやり切ることはできませんでした。本当にありがとう。

次に、お父さんとお母さんへ。まずはお父さん。お父さんは、文字通り 2 年間私の「脳みそ」でした。コトラーの添削から SAS の解説、三田論分析の確認、卒論の論理性の確認や分析のやり方、結果の読み取り方。このようなゼミ活動の内容面から、ビジネスメールの文面の作り方、ゼミ長としての他者との接し方まで、本当に色々なことを教えてくれました。こうやって文字にしてみると、果たしてこの 2 年間、私が自分でやったことって何かあったかなと思うくらい、沢山助けてもらいました。本当にありがとう。次にお母さん。お母さんは、生活面と精神面で私を支え続けてくれました。私が夜中まで部屋に引きこもってゼミ活動をしているときにはご飯を部屋まで持ってきてくれたり、睡眠時間が少ないと愚痴れば、家から三田まで車で送ってくれたりしました。この 2 年間、ゼミにまつわる嬉しいこと、悩み、愚痴、全てをお母さんに話してきました。愚痴なんて聞いてても楽しくないだろうに、いつも最後まで私の話を聞いて

くれたから、私は精神的に安定していられたと思います。お母さんの支えがあったから、私は小野ゼミでの2年間を全くエグイと感じずに過ごすことができました。本当にありがとう。いつも仲良しで笑顔溢れる二人の娘として22年間過ごすことができ、私はとても幸せ者です。これまでしてもらったことに恩返しできるように、これからも頑張り続けます。引き続きよろしくをお願いします。

そして、私の大好きな、大切な大親友たちへ。みんなが頑張っているということが、小野ゼミでの2年間私を支え続けてくれました。みんなが自分の好きなことを一生懸命勉強し、夢に向かって一直線に走り続けていることが、私をずっと励ましてくれました。会えば中高生時代に戻ったようにバカ笑いをして、お互いを称え合い励まし合って、切磋琢磨できるみんながいてくれて本当に良かった。みんなのことを心から尊敬しているし、大好きです。これからも信じられないほど大爆笑しながら過ごしていこうね。

最後になりましたが、私たちの恩師である小野先生へ。2年間、未熟な私たちを温かく見守り続けてくださり、ありがとうございました。もしも小野ゼミに入っていなかったらと思うとゾッとするほど、この2年間は充実したもので、自分自身が大きく成長できたと実感しています。小野先生がいつも見守ってくださっていると感じていたから、頑張り方を認めてくださっていると感じていたから、同期と本気でぶつかり合え、互いに成長することができたと思います。私が2年生のときのオープンゼミで、小野先生が、「体育会所属でない君たちは、体力ではなく知力で彼らと張り合っていかなければならない。」とおっしゃっていたことがいまだに強く記憶に残っています。小野ゼミでの2年間は、頭を使って考えるとはどういうことなのかを深く学んだと同時に、実際に頭を使って考え続けた2年間でした。このような経験ができたことは、非常に有り難いことです。慶應義塾の卒業生、そして、小野ゼミのOGとして立派な人となれるよう、引き続き精進してまいります。2年間、本当にありがとうございました。

以上のように、私の小野ゼミでの2年間は、周りの人々に大いに支えてもらった2年間だった。小野ゼミに入らなければ、周りの人々の温かさに気付くことはなかったであろう。このことに気付けたことは、私の小野ゼミ生活における最も大きな収穫の1つだ。これからも、周りの人々への感謝を忘れず、そして今度は私が周りの人々の「脳みそ」となれるよう、前に進み続けたい。改めまして、私に関わってくださったすべての方々に感謝申し上げます。2年間、本当にありがとうございました。

